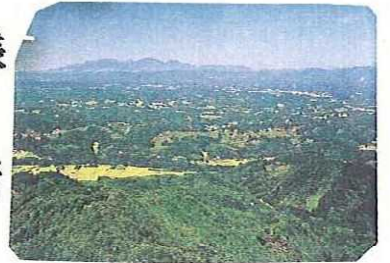


・ 景観・資源を活かした心の旅

夜空を眺めながら一人瞑想に耽り、県南の雄大な自然の景観や、歴史、文化、食と四季の癒しの心の旅を紹介してみたいと思います。

ここの地名「十矢」(とや) (写真①) は、昔殿様や武士が、この周辺を獵場としていた所です。よく猪が出ることから猪毛(ししけ)とし、その猪を犬が吠えたてたので犬鳴きとし、吠えられた猪は殿様から十本の矢で仕留められたことから十矢の地名となった由来と語りつがれています。



この地域には、ロマンをかきたてる歴史が数々あります。中心部を流れる大野川に沿って、多くの磨崖仏が点在しています。

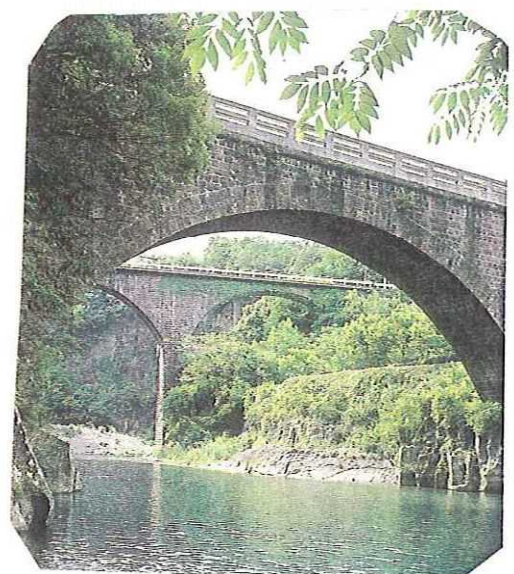
下流にある犬飼石仏を始め、国指定重要文化財の菅尾石仏や、普光寺磨崖仏(写真②)では県内最大の高さ11.3mの不動明王像は圧巻です。

磨崖仏の顔を覗いていると、優しい顔や、怒った顔、怖い顔と色々あり、当時の繁栄が忍ばれ彩色も残っており感慨に浸り感無量です。

又、大野川水系には多くの石橋が今も実在しており、人々との暮らしと共存しています。

写真③ 轟橋

(写真②) 普光寺磨崖仏



橋脚間日本一で有名な轟橋（写真③）を始め、優美な姿を見せる原尻橋五連アーチなど、観光客で賑わっているようです。

東洋のナイアガラと言われる原尻の滝（写真④）は、日本滝百選に選ばれているだけに壮観です。

春にはチューリップフェスタも催しされ色とりどりの花が人々の心を和ませてくれます。

日本名水百選の清流白山では、毎年初夏には沢山の蛍の幻想的な乱舞がみられ、多くの見物客で賑わうようです。

地域の伝統芸能では里神楽のリズムかる笛や太鼓の音が響き渡り、荒神が舞って物語りとなる御嶽神楽（写真⑤）をはじめ各地区には神楽座があり、それぞれの伝統の舞が継承されています。

柴山八幡社のひょうたん祭りも賑やかで、人々の和を育んでいるようです。

写真④ 原尻の滝



写真⑤ 御嶽神楽



食文化では、おばあちゃんの手作りの酒万十（写真⑥）や鍋の中にイリコ、里芋、椎茸、野菜など多くの具を入れた、だんご汁などが有名です。

全国ブランドの豊後牛は自慢の食肉です。

九州の尾根とも言われる、祖母・傾山の（写真⑦）雄姿も見事です。

緑深く刻まれた谷には、清流が流れ柱状節理と言われる切り立った崖（写真⑧）は実に勇壮です。

春は新緑、夏は冷たい谷水、秋には見事な紅葉と恵まれた九州の尾根の景観に人々の気持ちを心よく和ませてくれて、四季の変わりには感動を当ててくれます。

こんな大自然に恵まれた素敵な豊後大野市の地に誇りを持ち、点在する数々の史跡や文化、伝統を後世に継承するように、一人一人が心がけて守っていくように願いながら、癒しの心の旅を終わりにしたいと思います。

写真⑥酒万十



写真⑦祖母・傾山



写真⑧柱状節理



写真①十矢から観た風景



だんご汁